

経済建設常任委員会行政視察報告書

視察年月日 平成22年10月12日（火）～14日（木）

視察場所 山口県周南市鼓海2丁目118番地の24（周南地域地場産業振興センター）
島根県益田市常盤町1番1号（益田市役所）
山口県萩市江向510番地（萩市役所）
山口県萩市堀内355番地（萩博物館）

参加人数 経済建設常任委員会 5名

視察項目 1. 周南ものづくりブランド事業について（周南市） 10月12日（火）
2. 農業担い手支援センターについて（益田市） 10月13日（水）
3. 歴史的風致維持向上計画推進事業について（萩市） 10月14日（木）

視察選定理由

1. 周南市 地場産業の健全な育成及び発展を図るため、また、地域経済の基盤強化と地域住民の福祉の増進を目的として、周南ものづくりブランド事業を行っています。ものづくり支援、人づくり支援、ネットワークづくり支援等、周南市の取り組みを参考に、当市でも地場産業の発展に活かしたく選定しました。
2. 益田市 近年の生産者の高齢化や、担い手不足、農作物の価格低迷などにより、市の農業従事者数、耕作面積はともに大幅な減少傾向にあります。こうした傾向は全国的に今後も続くものと思われ、弱体化する生産基盤を維持していくため、各地域で農業生産法人や集落営農組織により取り組んでおります。当市でも農業の問題は同じであると考え、益田市の取り組みについて学びたく選定しました。
3. 萩市 萩市は、萩城址や武家屋敷、維新の志士の旧宅や寺院等の1つ1つが日本を代表する歴史的建造物として、貴重な文化財であり、毛利藩政期260年間に形成された城下町のたたずまいや町割りなどが今なお残っています。さらにその傍らで近世そのままの空間が市民によって守られ、いたる所に息づいていることこそ、優れた都市遺産文化と考えられます。当市でも歴史や遺産を大切に保存・活用し、次世代に残し伝えていくとともに、歴史的遺産を核とした魅了あるまちづくりを行うため、萩市の取り組みについて学びたく選定しました。

周南市視察報告書

視察年月日 平成22年10月12日（火） 午後3時～4時30分

視察場所 周南地域地場産業振興センター応接室

視察者 経済建設常任委員会 5名

視察対応者 周南市議会 副議長 米沢 痴達
周南地域地場産業振興センター 事務局長 今村 良
周南地域地場産業振興センター 専務理事 広実 優
周南地域地場産業振興センター 事業係長 徳原 慶二
周南市議会事務局 庶務調査係長 穴田 典子

視察項目 周南ものづくりブランド事業について

- 質問事項
1. 事業の概要について
 2. 現在の状況について
 3. 今後の課題等について
 4. その他

視察概要

（財）周南地域地場産業振興センターは、昭和62年9月設立（開館：平成元年4月）で、山口県周南地域（周南市、下松市、光市、田布施町）が対象地域で、実施主体は山口県周南3市1町、商工団体、関係組合計48団体で構成され、理事長は周南市長で、その他理事18名、監事2名、基本財産36,030千円の法人です。

センターの位置付けは、地場産業の振興及び育成のための中核施設として、人材の養成や企業、行政、公的団体、学術研究機関等をつなぐパイプ役など、周南地域の特定中小企業の活性化を図る支援機関です。

主な事業内容は、ものづくり支援（新しい取り組みに対して支援・マッチングによるものづくり支援）、「周南ものづくりブランド」認定製品の開発、人づくりの支援（研修セミナー開催、技術、技能、知識の習得支援、専門家派遣）、ネットワークづくり支援（情報の収集及び提供、周南ものづくりブランド認定製品のPR、販路開拓支援、コーディネート支援、周南ハイテクレポートの発行、各種相談事業など）に取り組んでいます。



中でも注目すべき点は、新製品の開発も行っていますが、既存の製品を工夫して違った製品を製作したり、宣伝方法を変えたりという、コストをかけずに新製品を開発している点にあります。これには、民間や企業の力が必要不可欠になります。当市においても、このような取り組みには、ハード面から積極的に支援を行うとともに、商工会等と連携を図り、地場産業の健全な育成及び発展のため、地域経済の基盤強化と地域住民の福祉の増進に努めていく必要があると強く感じました。

今回研修したことを参考に、当市における商品のブランド化確立を進めていきたいと考えます。



益田市視察報告書

視察年月日 平成22年10月13日(水) 午後1時30分～3時

視察場所 益田市役所議会応接室

視察者 経済建設常任委員会 5名

視察対応者 益田市議会事務局 次長 國司 広
益田市産業経済部農林水産課農業担い手支援センター室長 椋木 浩司
益田市産業経済部農林水産課農業担い手支援センター主任主事 沖 祐太郎
西いわみ農業協同組合 営農部営農企画課 石橋 正太

視察項目 農業担い手支援センターについて

質問事項 1. 事業の概要について
2. 現在の状況について
3. 今後の課題等について
4. その他

視察概要

農業担い手支援センターは、益田市役所内に設置されており、市の農林水産課職員と、西いわみ農業協同組合から1名の職員が出向して事業を行っています。また、必要に応じて、県の農政関連部署から支援を受けています。

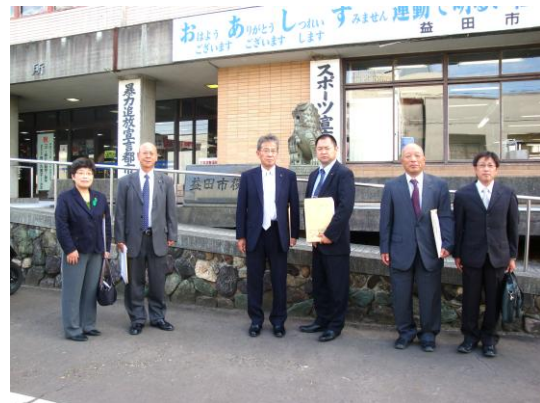
設置の目的は、社会情勢の変化に伴い、農業従事者の高齢化や耕地利用率の低下が進み、農業そのものが成り立たなくなりつつあります。そこで、新規就農者を増加させ、安定した農業経営ができるよう支援していくため、また、支援を行うにあたり、関係機関の専任職員がワンフロアに集まる「担い手専門部署の設置」が必要不可欠であると考えられ設置に至りました。



現在、日本各地では農業従事者数、耕作面積ともに大幅な減少傾向にあり、今後もこの傾向は続くものと考えられますが、一方で、生産基盤を維持していくために、農業生産法人や集落営農組織による取組も行われています。

益田市では、地域の特色を活かした生産に力を入れるとともに、遊休地や耕作放棄地を有効活用できるよう、仲介役となっています。また、認定農業者の掘り起こしや経営改善計画の策定支援、経営相談や農業サポーター制度の運営など、新規に農業を希望している人を対象として、積極的に支援に取り組んでいます。その結果、益田市の新規農業従事者数は、平成16年から毎年10人前後あり、年齢層は20代から30代の若者が大半を占めています。

当市においても、農業問題は深刻な問題であるため、益田市の支援体制を学び、当市に合った形で活用し、農業従事者の確保と安定した農業経営ができるよう、更なる支援体制づくりが早急に必要であると考えます。



萩市視察報告書

視察年月日 平成22年10月14日（木） 午前9時30分～10時30分

視察場所 萩市役所議会委員会室、萩博物館

視察者 経済建設常任委員会 5名

視察対応者 萩市議会事務局 副局長 藤岡 敏彦
萩市議会事務局 調査係長 須郷 嘉
萩市歴史まちづくり部まちじゅう博物館推進課 課長 柳井 和彦

視察項目 歴史風致維持向上計画推進事業について

- 質問事項
1. 事業の概要について
 2. 現在の状況について
 3. 今後の課題等について
 4. その他

視察概要

萩市は、毛利藩政期260年間に形成された城下町であり、萩城址や武家屋敷、明治維新の志士の旧宅や寺院等、日本を代表する歴史的建造物が数多く現存しており「江戸時代の地図がそのまま使用できるまち」として、城下町全体がかけがえのない姿で残されています。

高度成長期に入り、都市開発等により全国の歴史的遺産が失われ始めた時、萩市はいち早くその保存に取り組みはじめ、市独自の歴史的景観保存条例を制定するなど、遺産の保存や活用について、全国でも先駆的な役割を担ってきました。

この政策の1つとして、市内全体を博物館として捉えた「萩まちじゅう博物館」構想を立て「NPO萩まちじゅう博物館」の方々を中心に、市民と行政が一体となって構想実現に向け意欲的に取り組んでいます。この取り組みを一層推進するため「歴史的風致維持向上計画」を策定し、市のまちづくりにおける進むべき方向性を示すとともに、歴史的風致の維持及び向上を図ることとしています。



注目すべき点は、市民と行政が協働していることで、行政主体ではなく市民主体であることが重要だと思われます。行政は、ハード面の支援を行い、ソフト面は民間の力を活用しているため、観光客は、市民によっておもてなしを受けています。

当市においても、高山社をはじめとした、誇りをもって後世に伝えられる遺産や文化が数多く存在します。これらを行政主体ではなく、民間や企業の力を活用し、観光客誘致を推進するとともに、市の将来像である「市民が創り輝くやさしい藤岡～藤と冬桜が織りなす 幸せ実感のまちづくり～」に向け、なお一層努力していくべきであると考えます。



以上のとおり報告いたします。

平成22年11月25日

経済建設常任委員会

委員長 青木 貴俊

副委員長 反町 清

委員 湯井 廣志

委員 斉藤 千枝子

委員 神田 省明